

Mügge により第一は一九二五年、第二は一九二六に出版された。第三に於ては單斜晶系雲母屬以下と三斜晶系に屬する礦物が扱はれてゐる。最近一九二六年までの諸家の研究が豊富に取り入れてあり、斜長石のみに於ても引用文獻として列記してあるものは一六一の多數に及んでゐる。造岩礦物中岩石分類に最も重要な長石に關しては約一五〇頁を費し、斜長石の鑑別法の如き舊版にない新しい方法や圖表なども掲げられてゐる。卷末には顯微鏡的礦物鑑定表と礦物顯微鏡寫眞圖版七葉と微斜長石及び斜長石の光軸、主屈折率の軸の位置、消光角等を示すべき投射圖表が附してある。斜長石の種々の斷面に於て(010)の劈開に對する消光角をc軸に直角なる面に投射した圖表は成分の異なる六種のものに就て掲げられてあり、是を先年出版された Duparc et Reinhard, Détermination des Pagioclases, Mém. Soc. phys. et hist. nat. Genève, Vol. 49, 1924) の同様の圖表と比較して見ると成分の等しい材料に依るものは殆ど完全にその數字の一致せる事を見る。又 An の分子の百分比が等しくても Or の分子の來るために數字の差異がかなりの程度に達してゐるのを見る序だが第一部の卷末に附せられた斜長石の十三種の双晶の双晶軸の位置の成分の變化に従つて移動する仕方を投射した圖表と Duparc et Reinhard の同様のものとを比較する時は兩者の間にかなり著しい開きがある事は注意に値する。

(春本)

### ○支那の落花生

落花生が支那に於て栽培せらるゝに至つたのは明の神宗萬曆の頃(十六世紀)である初めは廣東福建であつたが後中部北部に弘まつた、其性質砂質の土壤を好むので今日では支那の高原を除いて全國産せざる所がないが、山東省が第一位にある、山東の落花生は明治四十二年獨逸商人が歐洲に販路を開いてから、俄かに發達したもので、大正元年以後、毎年各季には青島埠頭に落花生の山が出来るやうになつた、この農産物は山東、江蘇、湖南、湖北、直隸、廣東、廣西、福建、浙江、江西、安徽の各省にわたりて産し、就中山東は約六十年前、米國宣教師が大粒の種を本國から取よせて芝罘にて培養せしめてから、一躍主位をしめ大粒であり、光澤があり、搾油に適し、省内之を作くらざるはないが、其中では津浦鐵道以東の地帯に適し、汶、泗、沂沭、大運河に沿へる地に多く、泰安、大汶口、兗州を中心とし、黃河流域には東阿東平聊城の各地に産し、膠濟鐵道附近では坊子、膠州等を主産地とする、山東半島方面も亦これに劣らず威海衛附近に多くつくられる、この省の産額は、大正十三年青島から二、二五二、七四五擔、同歲付三九七、一四五擔、同油四九八、一六九擔を輸出したから凡そ省内で六百萬擔を下らないらしい。

廣東廣西では陰曆三月播種して六月に收穫する北支那では四月から播種して、九、十月頃に收穫する、水の少い所では灌漑の必要がある、播種に際しては外穀を厩して直ちに下種すると二三日にして白き幼芽を發生する、産品に南貨北貨の名があつて、濟南より北のものを北貨といひ、南貨に比して質劣り粒小さく、黄色を帯びて光澤が少い、落花生の油は歐米諸國で需用が多い、食用に適する土法の製油は悪いが青島で東和、蜂村西油房から機械製がでる、この方は良質であり、其粕は主として日本に輸出されてゐる。日本商人の中、土油を買集めて更らに精製してゐるのがある、實、油何れも邦商の取扱高が比較的多いやうである。

### ○蒙古セレンガ河の航通

フリヤト、モンゴールの自

治共和國首都ウエルフネウザンスク市にはセレンガ國立汽船部があつて、其航路を外蒙古烏里雅蘇臺迄延長する計畫を立てた、ヅナンスク市は舊のトランスバイカルの首府でセレンガ河のバイカルに入る沖積谷の都會で西比利亞線の一大驛であるが、外蒙の物産を集中するために、この計畫を實現したのである、從來セレンガ河の汽船は、露支國境の恰克圖とこの市との間に通つてゐて一九二五年以後は外蒙境内に入つてきた、そこで貨物が増してきたので、最近レニングラードへ數隻の汽船を注文して、本年六月以後は外蒙古ウイアスグアイ迄も其航路を延長せんとしてゐる、尤も烏里雅蘇臺は杭愛山の南麓にあつて水運はそこまで遠くないのであるが、陸運と

相俟つて下流ハラゴル及ランフラの兩地には各四萬布度の容量ある倉庫をたてるといふから、將來の見込は確實である

### ○箇舊事情

箇舊といへば支那雲南省唯一の財源たる錫

の産地で、雲南の對外貿易尻が一に錫の輸出によりて決濟せられてゐる上から、見逃してはならぬ要地である、滇越鐵道の一驛碧色塞を距る西南七十二基米、箇舊鐵道により約五時間間の終點にある縣城で、城は東西僅に數町、南北に細長き一小盆地の西端に位し、人口約二萬、最盛なるは南北の大街で商戸軒を並べ内外の諸貨を陳列し雜沓を極む、この地が世界的に其名を知らるゝに至りたるは宣統三年箇舊官商有限股分公使なるものを設けて、錫業の發展をはかりたるより以來のことにして、全く錫のために出來た、山間の一小市である箇山地の常として人氣荒く匪氣甚だ盛であるが本邦商品は歡迎されてゐる。錫山では錫務会社が尤も大規模で公司から十五支里をはなれてゐる馬拉格山を重要産地とする目下三千人の鐵夫が従業してゐる、其給料は食料公司受持で月四元乃至九元である。

### ○カレー粉と胡椒

印度人は淡白な食物よりも濃厚な

食物を好む、三度の食事は油脂類の入つたものだにしてその食物の中へ必ず刺激の強い香料を入れる、從てカレー及胡椒其他の内地消費量は大了もので、印度三億二千萬人、假りに一ヶ月一人が半封度宛のカレー粉を用ひるとすると、一ヶ月に一億千二百萬封度を要する。然し印度人はカレー果をオロ

シで仰して用ふるので、カレー粉としては用量が少ない。其原料植物をコリアンダ、シーツといふ、其果實及葉を食用に供する、葉は内地で消費し其果實は多く原料のまゝで輸出される。最近五ヶ年の平均一年輸出額は五千二百六十噸百三十六萬八千留比を示めてある。ベンゴール、孟買、マドラス、緬甸の各地からである。

胡椒も同じく印度の調味料で、印度のカレーライスに、非常に胡椒を利かして、とても本邦人の口に合はぬものである、印度西部海岸地方に古くから生産する、其の植物の學名を、*Piper Nigrum* といふ。毎年十一萬封度を輸出する。

### ○ダヴァオの養蠶

ヒリツピン、ダヴァオで本邦人が

活動してゐることは周知の事であるが、ダヴァオ市在住の長崎縣人増田梅次郎氏は、熱帯養蠶の研究に志し、多年實驗の結果、其成績大に見るべく、内地に比して損益なきことを確かめ、當地中央小學校の如きは其敷地一町歩を提供して斯業の發展を助成し知事も一方ならず勸誘してゐるといふことである、大正十五年三月本邦より輸入した歐種白繭一化性蠶種を飼育し二十一日で上簇するといふ、昭和二年二月には本邦産支那種で二十三日に上簇した、晝間二時間、夜間四時間毎に給桑してゐる、大正十四年桑苗を移植し目下桑圃三反歩ありといふ。

とにかく日本人は海外に出て、或は米作或は養蠶といふ風に郷土で手にのつた仕事さへやれば、發展するといふよい參考

になると思ふから之を記しておく。

### ○波斯的鐵道

波斯は今日猶駝駝や馬、驢の背による輸

送時代でバグリアニマルが唯一の交通機關で、ギリウス大王時代からの傳統に従つてある、そこで交通の改善が同國開發の一大急務であるから一九二六年に波斯政府は鐵道布設案を波斯議會に提出した、前王朝の時代にも(カシヤール王朝)計畫はあつたが一も實行されなかつたが、一九二四年十二月十二日波斯議會がカシヤール王朝のアーメッド、シヤールを廢して、波斯近世の偉人リザカンを新王として茲にパレヅイ王朝が起るや財政顧問米人ミルスホー博士の手腕によつて、同國の財政状態は改善復活されることになつた、同王は今や同國の富海開發の爲めに就中鐵道の發達に銳意してゐる、從來いろ／＼の計畫があつたが、本月二十二日になつて波斯議會は愈モハメラより裏海ハンダールケズ港に至る波斯橫斷鐵道施設の權限を政府に委任することを可決したとの事であるからこの豫定線について左に概略をのべて同國の復活を祝福しておきた。Mannarrah 港(シヤトエルアラブ川と波斯のカレン河(吃水淺い船は同河をアラブ迄溯れる)との會流點にあつてバグテイヤリ油田開發のため、英波石油會社の創立されて後一躍人口一萬の都會となつた、この地からカレン河の東岸に布設せられてある英波石油會社の石油輸送鐵管と併行して海拔六百五十呎のテイズフルに達する、それからさきは地勢一變して山地となるから工事は困難であらう、恐らへ

アイズフルから同河に沿ひアルジツトに達し更らに荷馬車道路に沿ふてハマダンに出で、ハマダンから難工事であるが、多分首府テヘランをへてカスヴィンに達し、それより裏海岸に出るのであらう。終點の Yen 港は裏海の南西隅にある小港でアストラバッドに近い。(F)

○南阿鑛業

一九二六年に於ける南阿の鑛業額は前年に比し、四百萬磅以上を増加し、鑛業界は近年稀なる好況を呈したり、今主要鑛産物に付最近三年間の産出額を示せば次の如し。(單位磅)

黄 金	一九二六年 四〇,一八〇,一五三	一九二五年 四〇,七五七,九八一	一九二四年 四〇,六七三,一八六
金剛石	一〇,六六三,三三五	八,一九八,三二六	八,〇三三,九〇九
石 炭	四,〇〇六,一五三	三,八六六,二一八	三,八四四,七六六
銅	四七九,八五三	五〇四,三二九	五三〇,〇八四
錫	三三三,三三三	三三〇,五三三	三〇五,三九八
白 金	九三,七〇七	—	—
其他鑛物	五五五,二三三	七五七,三三九	九〇九,九九九
計	五,四四八,〇五八	五,四四九,三三七	五,四七六,五五九

○カリフォルニア州産の水銀

米國水銀産額中優に其九割を産出するは加州にして、其鑛業會社は本店をロスアンゼルスに置き、加州水銀産額の約八割五分を占む、是に於てロ市は世界水銀取引の中心となれり、最大の水銀鑛山は加州沿岸にあり、小鑛山はテキサス、ネヴァダ及オレゴン諸州

にあり、加州の水銀鑛山は北は湖水地方より、南サンタバルバラに至る、沿海山脈中にあり、又デル、ノルト。シスキユ。トリニチー。シヤスタ。エルドラド。ケルン。サンベル。デルナノ及ナバ等に散在す。

○大正十四年十月一日國勢調査の結果による日本内地の人口(七) 宮城、福島、岩手、青森、山形

宮城縣	二五,五三五	岩出山町	五,七六一
宮城郡	九,五八七	鳴子町	五,一二四
原 町	一六,八七三	各村合計	一九,四〇一
鹽釜町	六,〇七〇	遠田郡	五〇,一〇三
各村合計	二六,七六五	涌谷町	六,六三六
黒川郡	二六,七六五	田尻町	四,六二五
吉岡町	三,五八八	小牛田町	二,六九五
各村合計	二五,一九七	各村合計	三三,八七七
加美郡	三,六二九	栗原郡	九三,六〇八
中新田町	五,九六八	高清水町	三,一〇一
各村合計	三六,六一一	築館町	四,七〇八
志田郡	四四,六七七	一迫町	五,三三七
古川町	二,四〇〇	岩ヶ崎町	三,三九三
松山町	五,三二〇	若柳町	八,四九九
三本木町	四,三三三	各村合計	六,六四四
各村合計	二三,五五五	登米郡	七六,三三五
玉造郡	三〇,二九六	佐沼町	五,二一八

登米町	七、六四〇
米谷町	四、四〇〇
石森町	五、〇〇五
各村合計	五、四〇六
桃生郡	七、五二八
飯野川町	五、五二八
各村合計	六、三三〇
牡鹿郡	六、五五三
石卷町	一、五、五五〇
渡波町	六、九二〇
各村合計	三、〇九〇
本吉郡	七、四、三二一
柳津町	三、三二五
志津川町	六、九三六
氣仙沼町	二、四四二
各村合計	五、一六五
福島縣	一、四七〇、五八六
福島市	四、三九九
若松市	四、九三三
郡山市	四、九八四
信夫郡	九、一〇九
飯坂町	五、七二一
瀬上町	二、五九四
各村合計	七〇、七九六

伊達郡	三、六一七
桑折町	三、九三〇
藤田町	三、七二五
梁川町	六、三三三
保原町	六、二二二
掛岡町	三、六三三
川俣町	七、九四五
各村合計	九、四七九
安達郡	九、〇九六
二本松町	九、一三三
本宮町	六、九八〇
小濱町	五、四四四
各村合計	七、七〇一
安積郡	四、三三三
日和町	四、七六四
各村合計	四、〇、五六一
岩瀨郡	四、二〇七
須賀川町	一、六、五八八
長沼町	三、六三三
各村合計	三、九七七
南會津郡	五、三三〇
田島町	五、三三九
各村合計	三、三六一
北會津郡	六、一三三

耶麻郡	九、九七九
喜多方町	一、四〇〇
鹽川町	三、〇〇一
猪苗代町	三、五六一
各村合計	七、六六六
河沼郡	五、九三三
坂下町	五、五七七
野澤町	四、〇三三
各村合計	四、三三三
大沼郡	四、九六九
高田町	三、六四三
本郷町	三、一〇〇
各村合計	四、三三七
東白川郡	四、八、〇〇五
棚倉町	四、七五三
各村合計	四、三三三
西白河郡	六、九三三
白河町	三、〇七七
矢吹町	三、五八八
各村合計	四、三三三
石川郡	四、〇九六
石川町	五、四七五
各村合計	六、三三三
田村郡	一、〇、四三三

三春町	八、一六六
守山町	四、九三九
小野新町	五、七九九
常葉町	四、八九九
各村合計	八、〇、〇六〇
石城郡	一〇、一、二七二
植田町	五、五五五
勿來町	七、八四四
平町	三、一、四七九
江名町	五、五七七
小名濱町	七、五八八
湯本町	三、六三三
四倉町	七、三〇三
各村合計	一、三、三九九
雙葉郡	六、六三三
久之濱町	四、三三三
富岡町	四、四七七
新山町	三、五九〇
浪江町	五、〇三三
各村合計	四、三、三〇〇
相馬郡	一〇、一、八三三
中村町	九、三三三
鹿島町	三、一三三
原町	一〇、九三三

小高町	六、四二〇	岩谷堂町	六、七〇〇	久慈町	五、七三三	北津廳郡	七、三四二
各村合計	七、一九五	各村合計	五、七七一	輕米町	六、二二一	五所川原町	七、三五七
盛岡市	五〇、〇〇〇	一關町	五、五五五	各村合計	五、七〇〇	板柳町	五、〇八三
岩手郡	八、七六五	各村合計	六、八〇〇	二戸郡	五、九四〇	金木町	四、六四五
沼宮内町	三、六六五	東磐井郡	四、六五五	一戸町	三、六八五	各村合計	五、二五七
各村合計	七、四〇〇	千厩町	六、七五五	青森縣	四、七、五五	上北郡	一〇、一六五
紫波郡	四、七〇〇	大原町	六、二五五	弘前市	八、三、七七	野邊地町	一〇、四八九
日詰町	三、三三〇	各村合計	六、三五五	青森市	五、九、五三	七戸町	九、〇一九
各村合計	四、三、七〇	氣仙郡	三、〇六一	東津輕郡	五、七、四〇	三木木町	九、六九五
稗貫郡	五、七、七三	盛町	二、四三三	油川町	九、〇、四二	各村合計	七、六、四四
花巻川口町	九、八、四三	高田町	三、五、五〇	各村合計	八、七、〇八三	下北郡	五、八、六六
花巻町	四、〇、三九	各村合計	五、一、二九	西津輕郡	六、九、五五六	川内町	七、一、八八
大迫町	二、五、三九	上閉伊郡	七、六、二七	鰺ヶ澤町	四、一、九三	各村合計	五、六、四三三
各村合計	四、〇、三三三	遠野町	六、六、四〇	木造町	三、八、八三	八戸町	三、〇、〇〇〇
和賀郡	六、六、六八	釜石町	三、四、四九	各村合計	六、二、六八一	湊町	三、五、五九
黒澤尻町	七、八、〇〇	大槌町	一、〇、三三〇	中津輕郡	六、七、六六六	三戸町	五、六、四四
各村合計	六、二、七〇八	各村合計	五、七、七五	南津輕郡	二、〇、九三三	五戸町	六、九、九六
膽澤郡	六、四、五三六	下閉伊郡	六、六、七四	黒石町	七、八、七	各村合計	一〇、四、七五
水澤町	一、〇、九三三	宮古町	三、六、〇三	石川町	六、〇、四八	山形縣	一、〇、七、二七
前澤町	六、〇、〇〇〇	山田町	五、七、七	大鱒町	六、四、二八	山形市	五、九、九四
金ヶ崎町	六、六、六六	岩泉町	五、〇、七	藤崎町	四、五、四	米澤市	四、六、一〇
各村合計	四、〇、八七七	各村合計	五、九、五三	各村合計	八、六、〇三	鶴岡市	三、八、〇
江刺郡	四、六、四一						

南村山郡	六五、五四五	南置賜郡	三四、四九〇
上山町	一〇、八六九	東置賜郡	九一、九〇〇
各村合計	五四、六七六	高田町	七三、五九〇
東村山郡	四四、〇三三	赤湯町	六〇、〇三三
天童町	六、八八〇	宮内町	八、九三三
長崎町	六、二七七	小松町	五、六六五
山邊町	六、三三二	各村合計	六三、八六〇
各村合計	七四、五八四	西置賜郡	七二、九六六
西村山郡	四七、九七九	長井町	九、四六一
寒河江町	一〇、六六一	荒砥町	五、〇四八
左澤町	五、七五九	各村合計	七〇、三七七
白岩町	五、三三四	東田川郡	八、六〇八
谷地町	二、八三三	藤島町	四、六九〇
各村合計	六三、四三三	余目町	六、三三七
北村山郡	一〇〇、〇四四	各村合計	七八、〇七三
楯岡町	八、七四七	西田川郡	五九、七三〇
東根町	九、三七七	大山町	六、九〇五
大石田町	三、四六六	加茂町	五、一七九
尾花澤町	五、六四三	各村合計	四七、六八八
各村合計	七三、八四四	徳海郡	九九、五四四
最上郡	四七、〇七四	酒田町	二五、〇一九
新庄町	一八、三三六	松嶺町	三、四四〇
金山町	八、三三四	各村合計	七三、二六五
各村合計	六六、六四四		

### ○地球學園、岡山支部近況

○第十八回例会 大正十五年十一月二十六日、備中高梁、成羽地方へ化石採取旅行をなす、同日岡山驛に集合、午前六時四十分發下り列車にて倉敷を經、午前八時三十六分高梁驛に下車して徒歩成羽に向ふ、途中友人平松君(成羽町福地の産)の來り迎ふるに會し、案内せられて福地に至る、此邊谷川、山麓中腹の區別なく無數に散亂せるシッドモノチスの化石の立派なるを雜獲に充たし、それより晝食を喫し小丘を越え成羽町市街に出て、成羽川の右岸を上リタカシ小僧を採取し、自動車にて高梁に歸り午後五時發の汽車にて同六時三十八分岡山歸着開散す、參加會員十八名、

○第十九回例会 昭和二年一月十八日午前九時より縣立商業學校に開會す、本日は近來稀なる寒き日とて來會者少く僅か十二名なりき、左記講演を豫定の通り終はる。

1. 津山盆地と甲府盆地との比較 春露高女 小館軍三君
  2. 最近支那の革命 二中 小出 保君
  3. 昨年度會計報告 幹事 浦上宗衛君
  4. 本年度事業の豫定意見 各會員談話
- 第二十回例会 四月二十四日左記日程にて兒島郡下津井地方へ研究旅行をなす、來會者十五名なりき
- 午前八時二十分岡山發 八時五〇分茶屋町着  
九、三〇分茶屋町發 一〇、三九分下津井着
- 無線電信局參觀

午後〇、四〇下津井發

一、〇七、味野野

鹽田、野崎家追退堂寺參觀

四、四六味野發

六、三六岡山歸濱

本日の鹽田視察は微細に研究せし事として大に得る所ありたり

〇第二十一回例會 五月二十二日岡山女子師範學校内に開き  
來會者二十五名左記講演あり寫眞、標本其他の展覽みなせり

1. セレベス島視察談

師範 東儀 文孝君

2. 丹後地震地方視察談

一中 松本米次郎君

午後一時より岡山驛の視察に赴く驛長及主席助役の懇切なる

説明ありて後各所（地下室各装置、檢斤臺、氣送管、高聲機

便所の新装置、新設電話等）一々案内實驗を示され多大の利

益を得たり午後四時三十分開散せり

〇第二十二回例會 六月十九日午前九時より六高博物學會主

催なる八木教授の

1. 日本地史の梗概 (主として地質調査所編新刊)  
地質圖及其説明書による)

を傍聴し午後一時より縣商に於て

2. 地球に近づきつゝあるウインネツケ彗星に就いて

關中 水野 千里君

の講演ありたり來會者三十名盛會なりき。(浦上宗衛報)

答 昭和二年度列國々勢要覽の報告に従へば在外本邦人の數  
左の通り

外國に在留する本邦人の總數は百十六萬で、帝國の總人口に  
比すれば、一萬人につき百三十七人に當り、内地人は六十一  
萬、朝鮮人は五十三萬、臺灣人は九千である。本邦人の最も  
多く在留してゐるのは、亞細亞洲の七十九萬で、北亞米利加  
洲の十五萬、大洋洲の十四萬、南アメリカ洲の六萬之に亞  
最も少いのは阿弗利加の六十五人である、内地人を在留國別  
に見て十萬以上在留してゐるのは支那、北米合衆國及布哇の  
三ヶ所で一萬以上はブラジル、カナダ、メルウである、左表  
を見よ。

内地人在留者

支	那	一四四、七七一	滿	洲	九七、一七八		
米	國	一三三、〇八〇	ハ	ワイ	一二五、七六四		
伯	國	四九、四〇〇	カ	ナ	ダ 一九、六七九		
メ	ル	ウ 一〇、九六九	ヒ	リ	ツピ 八、六七四		
海	峽	植民地	六、三九四	蘭	領東印度	四、一九五	
メ	キシ	コ	三、六三二	ア	ル	セン	チ 二、六〇九
英	領	印	度	一、二一九	其他各地	一千人以下	

問 加州は年中五月の様な氣候を呈するのは何故ですか。

(大阪 〇生)

答 桑港の正月の平均氣温は華氏五十度、冬でも温かいが、  
夏の七月の平均氣温は華氏五十八度あまり酷しくない、年雨

質疑應答

問 本邦海外移民の數を承りたし 福井 溪路生